米海兵隊岩国航空基地

戦略計画

2005-2007

卓越した勤務地
素晴らしさへの約束

米海兵隊岩国航空基地は一丸となり、安全に、能率よく、
又、効果的にアメリカ合衆国及び同盟国への支援活動を行う。

目次

米海兵隊岩国航空基地司令官の言葉 ・・・・・・・・・・・3

将来像と使命 ・・・・・・・・・・・4

基本方針 ・・・・・・・・・・・5

基地優先事項 ・・・・・・・・・・・6

ゴール1－素晴らしさの実践 ・・・・・・・・・・・7
ゴール2－互いの尊重 ・・・・・・・・・・・8

米海兵隊岩国航空基地について ・・・・・・・・・・・9

米海兵隊岩国航空基地のテナント部隊 ・・・・・・・・・・・10

米海兵隊岩国航空基地司令官の言葉

Marine Corps Air Station Iwakuni, Japan
在日米海兵隊岩国航空基地は、第三海兵遠征軍の隷下に属する海兵隊空陸機動部隊の中枢である前方展開航空支援基地として、きわめて重要な役割を担っております。米海兵隊岩国航空基地の日々の任務は合衆国および同盟国の作戦部隊が任務を効果的に遂行できるよう支援することです。基地のサービスや運営過程は、我々がすべての任務において、使命を重んじ、最善を尽くすというコミットメントの証であります。

米海兵隊岩国航空基地の戦略計画は、現在並びに将来における使命達成に向けて我々の構想を明確にしたものです。この未来図を実現させるには、全てにおいて献身的で集約された努力が必要となります。我々の理想に達成することにより、米海兵隊岩国航空基地は、太平洋地域において他の基地の比較基準となる基地へと変貌を遂げるでしょう。

我々の目標は、基地住民、テナント部隊、展開部隊、合衆国並びに同盟国から訪問する航空機、や上層本部に「選ばれし最高級の基地」として認識されることであり、又、与えられた使命や支援任務の遂行においても最も優秀な基地であることです。焦点をしぼりプロセスの見直しをし、改善点の査定を行うことにより、米海兵隊岩国航空基地を評価基準価値の基地として確立することができるでしょう。又、継続的に運営管理のプロセスを評価し、人材や資材や特殊な能力を最大限活用し、環境問題や受入国に対して十分に注意を払い任務遂行にあたることにより、すべての事項においてこの将来像（ビジョン）を達成ができるでしょう。

任務以外の時も同様に「最善を尽くす約束」を守り、軍人やその家族、又地域住民に最高の生活と仕事の提供に従事しなければなりません。　この地域社会の一員であるということは、自己責任の受け入れと、あわせて我々の行うこと全てにオーナーシップ（所有感）を持つことです。これには安全かつ効果的な使命の遂行と、より良い米海兵隊岩国航空基地を作るという責務も含まれています。この戦略計画で、最優先事項や、鍵となる基本方針を明確にし、日常のやり取りにおいての基本原則とします。この原則にのっとり行動し、これらの優先事項に重点を置く事により、あらゆる事項においての決断が容易となることでしょう。

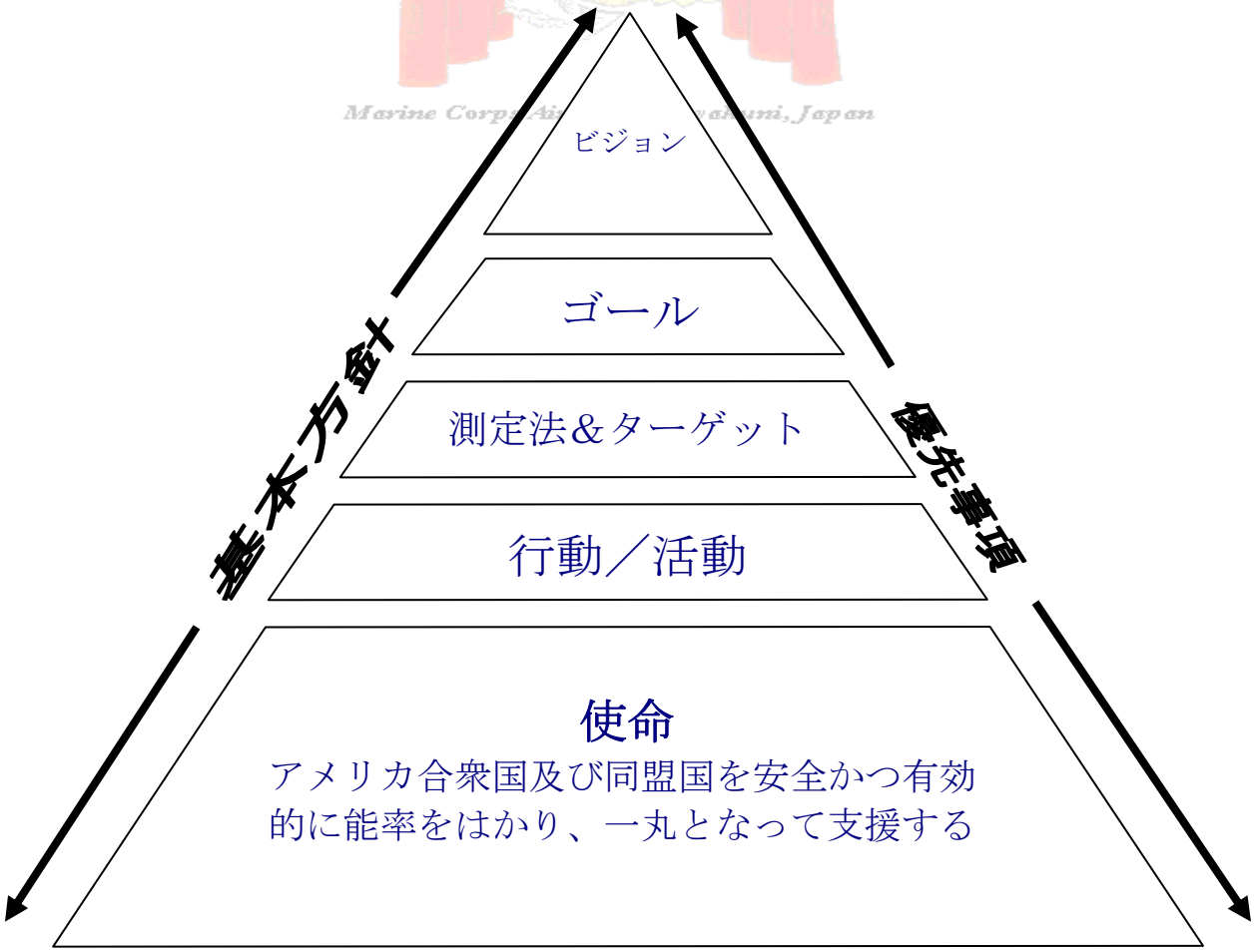
我々の戦略計画は上層司令部の計画と直結しています。上層司令部の計画と同一であると言うことは、我々は、使命・人々・運営管理プロセスおよび人材資材の管理に焦点を置き、卓越性にむけてのさらなる前進を遂げることです。この基地戦略計画は、各部署の戦略計画や目標達成段階や工程を計る業績表の作成の際の指導的文書となります。又、我々全員が、日々の任務を遂行しながら、戦略計画を反映することができるように作られた基本方針です。

今後引き続き、人材や資材は制限されるにも関わらず、より早いスピードでの運営が要求される事でしょう。しかし、私は皆さんがこの計画を自分達のものとして捉え、皆さんの団結したチームワークにより、前方に立ちふさがるであろう如何なる課題をも乗り越えることができると確信しています。

皆さんの参加と献身無くしてこの計画は実行できません。我々はこの計画を共に遂行しなければならないのです。

米海兵隊岩国航空基地司令官　ダイヤー大佐

岩国基地の将来像と使命



米海兵隊岩国航空基地は、使命達成に通ずる行動や活動の卓越性を追求し、明確な改善計画を基盤とし、我々の理想像に向けて構築されて行く。このピラミッドは、我々の存在基盤には我々の使命があることを描写している。使命達成に向け行動することにより、我々の価値は証明される。使命達成向けての改善は、自らの職務工程を評価し、自分自身の目標を立て、目標に照らし合わせながら自分の任務遂行の見直しを計る事から始まる。　自分自身の目標到達が、我々のビジョン達成へと導く。基本方針と優先事項が我々の案内役となる。

基本方針

オーナーシップ:責任感を持ち最高レベルのものを目指す姿勢
簡潔に言えば、何事においてもそれが自分達のものであり特別なものなのだという姿勢で取組むと言うことです。 我々は自分が提供するものに誇りを持つと、それがどんな良いものかを他の人にも経験ほしいと思うでしょう。我々自身が商品やサービスを提供するわけであり、自分の所有物と同様、全責任を担います。

チーム作り：互いの尊敬と価値の認識。日々の業務において組織内外の人員を一体化。
我々は１つのチームであり、決して単独に存在するものではありません。 我々の多様性が我々を強くし、多くの経験は、顧客へのより良い解決策を確立するために役立ちます。

ミッション〈使命〉に焦点を定める:チーム一丸となることにより目標を達成。
我々の基地はMAGFT(海兵空陸機動部隊)や、米国国防総省に属する他の機関の重要な業務支援サービスを行っております。太平洋地域で選ばれし航空基地としてあるべきことは確認済みの目標です。 我々は主として海兵隊のために貢献していることは決して忘れませんが、我々の海兵隊ための効率的で効果的な支援能力は、他の似通った支援要請にもすぐさま対応できるものと認識しております。

態度：言葉と行動が我々の組織の良い現れである。行動が大事。我々は自身の行動に対して責任があり、全責任を履行しなければなりません。我々の行動は、仲間にも及ぶのです。

安全:全ての手順における危険予知管理〈ORM〉の活用。
安全のために、我々の全行動において、まわりの様子に注意を払い、警戒を怠らないことは、常に重要です。 安全の原則は、すなわち自己責任において安全な環境のもとで仕事や生活をするという暮らし方に及びます。 安全とその確保は我々全員が共有する直接的な責務です。

価値観の中核:道義、勇気、義務を価値観の中核として生きることによる、最高水準の論理/道徳的行動の堅持
価値の真髄は、我々が従事している全ての活動の断片にまで存在します。これらの本質価値の低下を正当化するようなシナリオはありえません。この基地では、不明確な(グレーエリアにおいての)活動はしません。

改革:活発な意見交換に適した環境
国防総省内での変化は急速であり、我々も焦点を継続的改革に定めるよう要求されています。 改革を行うにあたり、我々は現存するツール（手段/手法）やリソース(人材資材)を有効利用しなければなりません。他の仲間とオープンかつ正直に話し合える能力は、そのリソースのひとつと言えます。 改革は、他の違った観点からのアイデアを、育て発展させるところから始まるものです。

有効性：適切な人員、適切な設備、適切な場所や時期〈適材適所〉
我々は、適切なサービスが、適切な人に、必要とされる場所と場合に確実に提供されるようプログラムに注意をはらいます。 我々は、カスタマーの要望に沿った支援を行い、我々の目標を最善の支援提供と定めることにより、カスタマー自身も全力で任務に遂行することが出来ます。

指導者：前向きな知識、技術、態度および人間関係の向上を促進。 将来のリーダー(後継者)の育成
知識の共有は戦闘力の増幅を意味します。 我々チーム全員の発展向上が我々の任務です。

基地優先事項

1. 反テロ対策／防衛並びに安全 - 人々の生活／資産の保護

いまやテロとの戦いはグローバル化しており､その最前線は至る所に存在します。
我々は周囲に対する注意を払い、リスクの軽減を図らねばなりません。

2. 快適な生活／良質の仕事－それは我々の人と使命に対し最善を尽くす約束を表す双方のバランス

あらゆる点において快適な生活が現実のものとなるよう全力を尽くしましょう。人に対するコミットメント(約束)を貫いてこそ、その人達が任務に対するコミットメントを果たすと保証されるというものです。

3. 現在の即応性－ミッションを遂行するための確実な能力

仕事に必要なリソース〈人材･資材〉やツール〈手法･手段〉が、必要な場所や時間に入手できるようにしましょう。　ツールとしては、訓練並びに開発向上をはじめとして、テクノロジーや産業・工業的リソースも含まれます。

4. 人的資源と組織や人事調整－適材適所適時〈技能／勤務体系〉

今日の急速な世界情勢の変化と､任務支援活動の変化やリソースの組替えなどがあいまり、結果として、我々は日常的に人員配置を見直さなければなりません。 仕事の変化に、ついていくことも職務です。 おおよそ、それは新しい事を習得したり、また、今までと違う業務を遂行する事を意味しています。

5. 将来への準備－　将来に備えて､適切な人材／能力を要望し育成する

我々の継承者のためにも、この基地を最高の場所に作り変えていかなければなりません。
仕事において、どのようにプロセスを改善できるか探究心をもって臨みましょう。

6. コミュニティーとの関係－　信頼と対話〈意思の疎通〉を確立しそれを継続

我々の地域社会はゲートの内外に関わらず存在します。我々は生活を営むこの地域社会を、さらによいものにしていく責任があります。地域社会との関係は、団体共同の責任です。

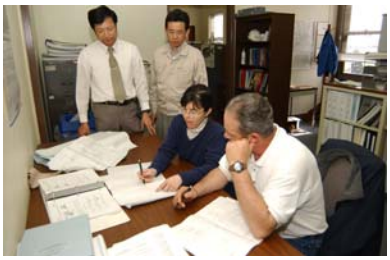
基地優先事項は、日々の活動おける全事項に関与している。これら優先事項が設定されていることにより、自身の行動や相互作用が重要な領域に、どのようなインパクトを与えるか考えることができる。予算や資金の決断を行う時、リソースの配分を決定する時、そして機能別のプログラムを決める時、あるいは個人的な決断を下す時、これらの優先事項に対して我々の決断がどのように関連するかを熟考すること。

ゴール

GOAL 1 –素晴らしさを実践する

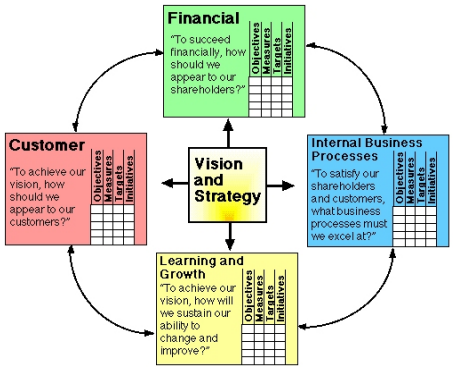
目標：

1.　私たちの素晴らしさを表して、興味を持たせる。
自分達の行動を通じて、我々の決意・思い入れの程を表しましょう。　地域社会の利益を考慮し、岩国基地のビジョン〈理想〉を、我々の全行動へと組み込んでいきます。　我々は、我々の決意を証明しながら、我々のゴールとその達成を分かち合います。



2. 現在並びに未来の需要を満たすために、各部門〈デパートメント〉間の協力／調整を最大限に活用する。
我々の行動は全て、ひとつの部署だけに限らず複数の部門に関連性があります。成功は、一丸となって行われた努力の賜物です。

3.　プロセスの改善と発展を測定し分析する
各部署は、その部署の最も重要な特性･機能、並びに遂行能力〈値〉を示す 測定方法を選びます。
測定方法とフィードバック(反応・測定結果)は、４つの必須要項を結合させた「バランス　スコアカード」の概念に沿って行われます。

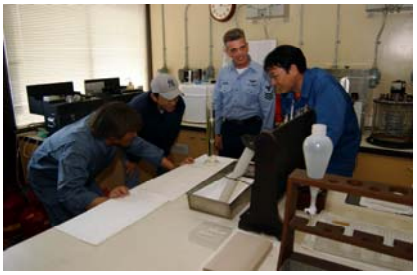


カスタマー〈顧客〉－カスタマーの声に耳を傾けましょう。
インターナルプロセス〈内部進行過程〉－使命達成に重要な過程が、どう遂行されているかを評価する。
ラーニング＆グロウス〈学習と成長〉－　発展・向上のための努力を数量値で表す。
ファイナンス（財務状況）－リソース〈人材資材〉管理の取り組みについて、その有効性と効率について報告する。

4.　需要の明確化、財務の管理、責務の履。
能動的に、また正確に需要計画をたてることは必要不可欠です。　効率良く、そして効果的にリソースを管理します。

GOAL 2 –互いの尊重

目標：



1.　開かれた誠実なコミュニケーションを通じて信頼と忠誠心を深める。

岩国基地では多様な文化を経験することができます。　これら多くの経験や異なる観点を知る機会を最大限に利用することは極めて重要です。

２．　日本の地域社会〈基地内外の日本人社会〉との絆を深める。

我々と地域社会との絆は、我々の業務遂行を左右します。その活動は個人個人の友好関係から組織化された共同のイベントにまで及びます。

３．　個人としても組織でも、個々は重要な役割を占めています。人的資源を大切に。

我々は相互の責任を負っています。事故を予防し、リスクを管理し、資源を守るのは我々の任務です。

４．　従業員がオーナーシップを持ち、良いカスタマーサービスを提供できるような職場にするために指導、教育、育成を推進する。

各自が自己の仕事内容と提供しているサービスや支援についてよく理解し、またビジョンに向いどのように貢献すべきかを把握する事が大事です。個人としてまたプロフェッショナルとしての向上が要求されます。

５．　無駄を省き、従業員に権限を与える。

部下に対して、我々の目標達成に焦点をおき、自分の不在中には代わって指揮できるよう指導しましょう。　仕事で達成感が得られるよう、よい職場環境を作りましょう。　リーダーシップとオーナーシップが使命の成功を確実なものにするでしょう。

米海兵隊岩国航空基地について

岩国は山口県の最も東に位置し、瀬戸内海にある安芸灘の西海岸にある。１７世紀初頭、吉川家当主により岩国城が建てられたが、その７年後には徳川将軍の命により壊された。現在の岩国城は２０世紀半ばに再建されたものである。

岩国のシンボルでもある錦帯橋は、町を流れる錦川にかかる橋である。 全長２００メートル、幅５メートル、木製で五重アーチのこの橋は、梁の組み立てには釘を一切使わないという大変珍しいもので、日本の三名橋のひとつとして知られている。

1940 年 7 月 8 日、米海兵隊岩国航空基地は、日本海軍の航空基地として設立された。第二次世界大戦中、この航空基地は訓練並びに防衛の基地として使用された。江田島海軍学校の分校のみならず、100 機以上の零戦闘機と 96 機の練習機がここに配備された。1945 年の 5 月と 8 月に、連合軍は岩国に爆弾を投下。NAS(海軍航空基地)岩国に最終の空襲警報が鳴ったのは第二次世界大戦終結の前日であった。

アメリカ合衆国海兵隊の部隊は、終戦の調印のための書類と共に、最初の同盟軍として岩国に到着し、この地域の戦闘は終わりを迎えた。第二次世界大戦終結後、アメリカ、オーストラリア、イギリス、ニュージーランドなどの部隊が岩国基地を占拠した。 1948 年には、岩国基地はロイヤル オーストラリア空軍の統治下となった。

その後、１９５０年、朝鮮戦争〈北朝鮮と大韓民国間で起こった戦争〉の勃発により、国連軍が岩国に到着した。国連軍パイロットは、朝鮮半島における前線部隊支援の任務のため、日々岩国から飛び発った。朝鮮半島に隣接する岩国の戦略的優位により、彼らは給油と再武装のため毎夜戻る事ができた。 岩国が「韓国への入り口」と呼ばれたのはその当時のことである。

1952 年 4 月 1 日、アメリカ空軍が航空基地の指揮を取り、基地内の施設･設備の改善に着手した。数ヵ月後、アメリカ海軍が航空基地の指揮権を取得し、第一海兵航空団司令部の到着に備えて道路の舗装を行なった。2,500 人を超える海兵隊員に備えて、航空基地の北側に位置する広大な地域が取得された

十年後、1400 エーカーの基地は海兵隊航空基地と定められた。1962 年より、新しいフィットネスセンター、フードコート、家族住宅を含む建築・修復工事が次々に推し進められた。 今日、岩国航空基地には、軍人とその家族および日本人従業員をあわせると約 10, 000 人が、基地及びその周辺で働き、生活している。

海兵隊岩国航空基地は現在、新滑走路の移転計画を推進中である。この10年計画により2009年までに瀬戸内海を2分の1マイル埋め立て、より大きく安全な滑走路が建設される。岩国市の愛宕山の掘削により、事業に必要な埋め立て用土砂が調達され、コンベアーベルトにより、はしけへと土砂が移動され現場へと運ばれている。

岩国基地のテナント部隊

海兵隊岩国航空基地は、数多くのテナント部隊が自らの使命を達成できるよう支援している。海兵第12飛行大隊（MAG12）は、その本部を岩国に置き様々な作戦上の指揮を取っている。

MAG12 は岩国基地の回転式（ヘリコプター）および固定式翼を持つ戦闘機の資産を受け持っている。「ザ・レディーグループ〈ニックネーム〉」として知られている MAG12 は４つの飛行中隊と補給中隊の本部でもある。１つの常置飛行中隊がここ岩国を本拠地とし、他の飛行中隊は部隊配置プログラムにより交代して配置されている。

海兵第２１２戦闘攻撃中隊(MFAS212)は、「ランサー（槍を備えた騎兵の意）」の異名を持ち、基地で唯一の常置の F/A-18 ホーネット戦闘飛中隊である。

海兵第 12 航空補給中隊(MALS12)は　MAG12 並びに基地に配置された他の指令部隊に対し物資の支援や手引き、教示を行っている。

MWSS-171〈海兵第 171 師団支援中隊〉は極めて重要な航空地上支援を基地に提供している。「アメリカンスクワドロン〈米航空中隊〉」の異名を持ち、岩国の人員に対し多くの特有のサービスを提供している。

CSSD-36〈第36戦闘業務支援分遣隊〉は岩国基地やその他の地理上地域に駐留する艦隊海兵部隊の各組織に対して戦闘業務支援保持を遂行している。それらは海兵第３軍団業務支援連隊の指揮官大将の指令により行われる。

Combat Service Support Deatchment 36